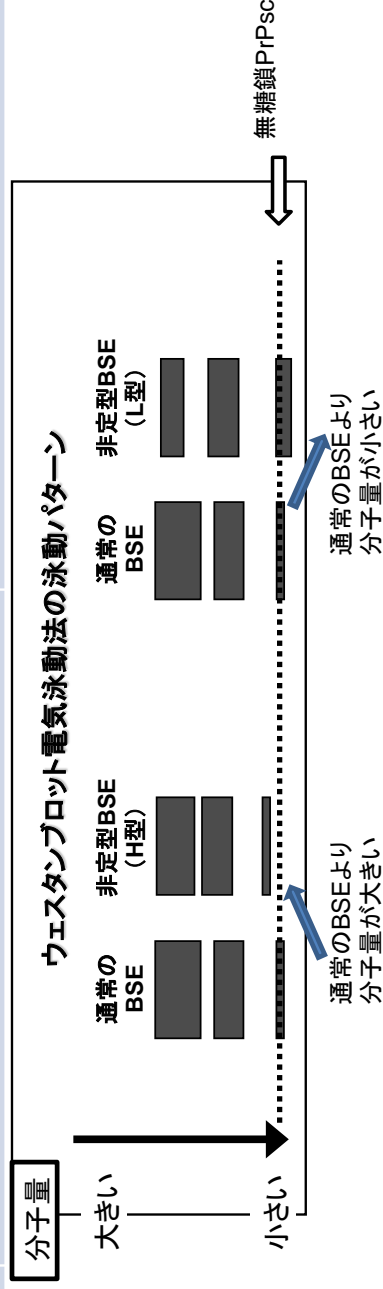


# 非定型BSEについて

## 定型BSEと非定型BSEの違い

	定型BSE	非定型BSE
定義	BSEプリオンが主に脳に蓄積し、脳の組織がスポンジ状になり、異常行動、運動失調などを示し死亡すると考えられている疾病 英国で1986年に発生を確認	ウェスタンブロット法の結果（電気泳動像）が定型BSEとは異なるパターンを示すBSE
原因	BSEプリオンで汚染された飼料の経口摂取	発生原因の詳細は不明 （孤発性の発生であることが示唆）
潜伏期間・摘発時年齢	平均潜伏期間は5～5.5年 （潜伏期間はBSEの暴露量による）	ほとんどは8歳齢超で確認 （6.3歳～18歳）
世界での発生数	約19万頭	92頭（2014年7月21日時点）
備考	—	ウェスタンブロット法の結果、定型BSEよりも無糖鎖PrPscの分子量が大きいものをH型、小さいものをL型と呼ぶ。 また、2011年にスイスでこれら以外の非定型BSE症例2例（8歳と15歳）が確認。



## 非定型 BSE の発生状況

近年の BSE 発生のうち、非定型 BSE について、既知の情報により集計したところ、以下のとおり。

2011 年 9 件（全 29 頭中）

オランダ 1（L）、ポーランド 1（L）、英国 2（L1, H1）、スイス 2（新タイプ）、スペイン 1（H）、アイルランド 1（H）、イタリア 1（L）

2012 年 6 件（ブラジル 1 件を含まない）（全 21 頭中）

英国 1（L）、スペイン 3（H1、L2）、スイス 1（H）、米 1（L）、（ブラジル 1）

2013 年 3 件（全 7 頭中）

フランス 2（H）、英国 1（H）

2014 年 3 件（ブラジル 1 件を含まない）（全 4 頭中）

ドイツ 2（L、H）、ルーマニア 1（L）、（ブラジル 1（H））

出典：OIE 通報、2012 年までの EU のレポート、英国 Defra の 2013 年までの報告書

（参考）

### 世界の非定型BSE事例

（2014年7月21日現在）

	L型	H型	その他	小計
オーストリア	2	1		3
デンマーク	1			1
フランス	14	15		29
ドイツ	2	2		4
アイルランド		4		4
イタリア	5			5
オランダ	3	1		4
ポーランド	13	2		15
ポルトガル		1		1
ルーマニア		1		1
スペイン	2	2		4
スウェーデン		1		1
英国	4	5		9
スイス		2	2	4
米国	1	2		3
カナダ	1	1		2
日本	2			2
総 計	50	40	2	92

（出典）EU：Report on the monitoring of ruminants for the presence of Transmissible Spongiform Encephalopathies (TSEs) in the EU in 2012 等

スイス：Virology Journal 2009, 6:64、OIE HP

米国、カナダ、日本：食品安全委員会 牛海綿状脳症（BSE）対策の見直しに係る食品健康影響評価（2012年10月）、農水省 HP